

## 資料提供

提供年月日： 令和元年(2019年)5月20日  
部局名： 琵琶湖環境部  
担当課： 琵琶湖保全再生課 琵琶湖環境科学研究センター  
担当名： 水質・生態系係 環境監視部門 公共用水域係  
担当者名： 藤原、奥田 山田、山本、岡本  
内線： 3463  
電話： 077-528-3463 077-526-4255  
E-mail： dk00@pref.shiga.lg.jp de51400@pref.shiga.lg.jp

### 琵琶湖北湖90m湖盆の底層溶存酸素等の現状について

例年冬に見られている全層循環が確認できなかった、第一湖盆(水深約90m)における、その後の調査結果について、お知らせします。

#### 1. 調査結果

##### (1) 底層における溶存酸素量(底層DO)について(表1、図1)

- ・4月以降に実施してきた調査結果では、当初調査地点ごとにばらつきのあった底層DOが、5月13日の調査結果では、全ての地点で7~8mg/Lに収まる(底層DOの均一化)とともに、鉛直分布の地点間の差異もほとんどなくなり、DOの低い水塊も見られなくなった。
- ・これは、琵琶湖底層付近における水温とDOが異なる水が、強風により混ざり合ったことによると考えられる。
- ・この結果、モニタリング定点(C点)において、平成31年2月頃から見られていた底層DOの大きな変動はなくなった。

##### (2) 湖底の生物について(図2)

- ・5月16日に実施したROV(水中ロボット)を用いた湖底調査において、イサザやスジエビ等の遊泳、生息を確認した。

#### 2. 現状の評価と今後の対応

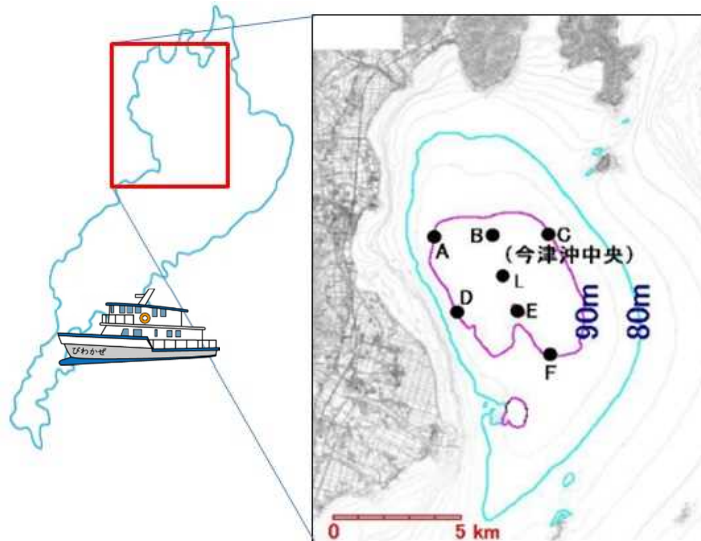
- 底層DOの均一化と上昇が進み、例年の春より1~2mg/Lほど低いものの、この先の水温躍層<sup>やくそう</sup>の形成期間における底層DOは、例年と同様に、緩やかに減少していくものと考えられる。
- このため、当面、2週間に1回の定期的な水質調査を実施するとともに、必要に応じてROVによる生物生息調査を行う。なお、底層DOの低下状況に応じて柔軟にモニタリング頻度を見直す予定。
- また、水産試験場などの関係機関と連携することにより、引き続き琵琶湖の状況についての的確に把握していく。

【参考】

1. 4月以降の調査概要

- ・原則週1回の頻度での底層DOのモニタリング。(通常は2週に1回)
- ・ROVを用いた、湖底の生物生息調査。

【調査地点】



C、L：定期調査地点  
A、B、D、E、F：補  
足調査地点

2. 【速報】調査結果（令和元年5月13日時点）

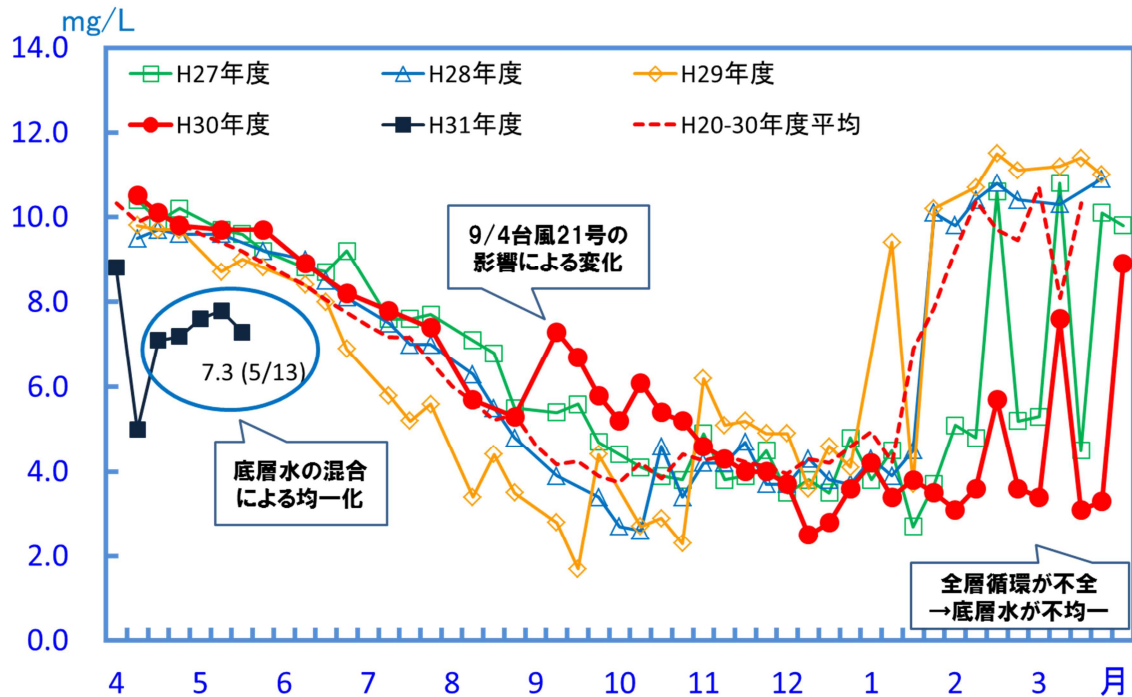


図1 C点の底層DO経月変動

単位:mg/L

| 調査地点      | 調査日 | 4月  |     |      |      | 5月   |     |      |
|-----------|-----|-----|-----|------|------|------|-----|------|
|           |     | 4/3 | 4/8 | 4/16 | 4/22 | 4/26 | 5/8 | 5/13 |
| A         |     | 5.1 | 8.1 | 7.2  | 7.2  | 7.1  | 7.3 | 7.5  |
| B         |     | 5.0 |     | 6.8  |      | 7.2  |     | 7.1  |
| C(今津沖中央)  |     | 8.8 | 5.0 | 7.1  | 7.2  | 7.6  | 7.8 | 7.3  |
| D         |     | 7.0 | 8.2 | 8.8  | 8.2  | 6.5  | 7.2 | 8.0  |
| E         |     | 5.7 |     | 6.9  |      | 7.2  |     | 7.9  |
| F         |     | 8.7 | 7.3 | 6.7  | 7.1  | 7.6  | 7.5 | 7.7  |
| L(第1湖盆中央) |     | 4.7 | 7.5 | 7.0  | 7.6  | 6.8  | 7.9 | 7.2  |

\*  の部分は、補足的な底層DOモニタリング調査。

\* C(今津沖中央)は、測定定点(17B)の分です。

表1 各地点の底層DO調査結果



スジエビ



イサザ

図2 湖底の生物生息の様子